

○ 3 番（山口裕子君）〔登壇〕

おはようございます。通告に従い、私の一般質問を始めさせていただきます。

始める前に当たりまして、私が議員になりましてもう 2 年が過ぎようとしておりますが、前一般質問をしていれば 8 回になったと思いますが、1 回お休みをいただいて、今回が 7 回目になります。私は武雄市が元気になる、そしてこんなまちに住みたいという、子供たちが本当にそういうふう to 育ってほしいなという思いで毎回一般質問をさせていただいております。

質問に入る前に、最近、私がとてもうれしいことは、いろいろな県外の会議とか女性議員たちの集まりとかに出席しますが、そのときにいつも声をかけてくださいます。それは本当に武雄市は元気でいいねって言うだけでいいのが、私が頑張っているわけでもないんだけど、本当に武雄市は何かうらやましいよねという声を聞くことが、今いろいろな問題を抱えて、きのうも重たい話やら、いろんなことありましたが、私は武雄市長が本当に一生懸命駆け回って頑張っているおかげだなというふう to いつも思っております。この元気を皆さんがわかっていただいて、みんなが力を合わせていい武雄市になっていくことを本当に願っております。そういうことを思いまして、今回の一般質問に入らせていただきます。

今回は武雄市のまちづくりについてという点で上げておりますが、武雄市のまちづくりといいますと、今、市長も頑張っておられる「がばいばあちゃん」のロケ誘致ということで本当ににぎわってきました。それは最初はバスを一、二台見ると、ああ、これは観光で来られたのかなという感じだったんですが、今は物産館とか 5 台、6 台とかバスがいつも来ていますし、淀姫神社とかのほうにもいろんな観光客の方が殺到されております。それは本当に温泉街とか朝市も定着してきましたので、徐々に武雄市が観光のまちとしてアピールされて成果を上げているんじゃないかなというふう to と思いますが、私としては山内町でありますので、また観光のスポットとして、ある意味、また武雄市とは違った自然空間といいですか、自然のいやしのまちといいですか、そういう形で山内町の道の駅黒髪里周辺とか、そういうまちづくりについてお尋ねしたいと思います。

温泉街やがばいのロケ地とか、そういうところではにぎわってきましたが、やはり武雄市としてももう 1 つの観光地、アピールしていただくという点では、すばらしい山内町の財産があると思いますが、その山内町のまちづくりについて市長の考えをお尋ねいたします。

○ 議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○ 樋渡市長〔登壇〕

議員も私も市町村合併、ちょうど 2 年前の 3 月 1 日に合併をして、4 月 16 日に選挙を経てなったという意味では、新市の新たな門出の議会なり執行部だというふう to 認識をして、その立場から申し上げますと、私はこれは記者会見等でも申し上げておりますけれども、旧北

方、旧山内、そして旧武雄が合併をして、非常にこれはいい合併だったというふうに思っています。

と申しますのも、それぞれ異なる歴史的背景、文化的背景のある自治体が組み合わさったことによって、1足す1足す1が5でも10でもなり得ると。今、実は私は1足す1足す1が5から10ぐらいかなと思っております。それをさらに伸ばすためには、ひとつ私がぜひ山内の方と話し合ってみたいのが、やっぱり山内の独自性とは何だろうかということをもう一回ちょっとぜひ考えてほしいなというのがあります。これは旧北方、旧武雄も同じですけれども、やはりそれぞれの独自性、あるいはそこにしかないものしか観光客は見向きません。そうするとするならば、山内は非常に高い潜在可能性があって、1つ上げられるのは、黒髪周辺の質の高い景観、それと窯元、密集度合いからすると、多分全国でも有数の密集度合いだと。数からしても、密集度合いからしてもあります。

それともう1つが、なな菜を初めとする食事を提供する場、あると非常に高い潜在的力を秘めているし、現にもう山内の評価は非常に高いです。それは商工会が一生懸命頑張っておられる黒シリーズを初めとして、ただ、ちょっと私がこれは傍観者みたいになってしまいますけれども、それをもう少し有機的にきちんと結びつけてほしいというのがあります。これは旧武雄、旧北方がうまくいっているかということ、それはちょっと置いておいて、うまく結びつけて、それが今、ともすれば日帰りでとんと入って、とんと帰ってくるというパターンになりよるわけですね。これが例えば、なな菜に行きますと、その後、どっかの窯元に行きますと、その後にまたどっかに行きますというふうに周遊になるような仕掛け、仕組みづくりということをぜひやらなければいけないというふうに思っておりますので、さらに潜在的な力が、本当に山内は佐賀県の中でも、あるいは西九州の中でも、九州の中でもすごいぞというようになるような力を秘めておりますし、その引き出し方をまた今後一緒に考えていければいいなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

私も山内町に住んでいて、本当に自然の豊かな背景をもとに、黒髪山とか、また魅力ある窯元さんたちもたくさんいらっしゃいまして、自分としても自慢できるというか、ありがたい山内町に住めていいなというふうに思っている一人ではありますが、黒髪の里の周辺の土地利用というか、そういう形で、平成19年10月に黒髪の里協議会のほうより要望があつておりましたが、ほかのいろんなまちおこしのグループとか、地元住民の方々が、やはり黒髪の里のにぎわいにあわせて、東側の土地の有効利用という形で市のほうに購入並びにそれが活用できるような形にしていただけないかなという要望書が出ておりました。

黒髪の里の隣接の利用計画というところで、用地の必要性というところで一応まとめてみ

ましたが、道の駅が10周年になります。道の駅になるまでに、やはり地元の住民の方たちとか、窯業部会とか、いろいろな商工会の方たちの御努力によってああいう形ができ上がってきて、今は本当にその功績が大きく、それまでは全く認知度の低かった山内地区の知名度の向上をもたらして、町内への回遊客、また登山客、窯元めぐりなどが増加して、道の駅を中心とした新商業集積、観光商業とか地元の購買の構築が生まれて、武雄から有田間の国道35号から黒髪山ろくを通る伊万里線との地域の発展軸が伸長し、さらには産業、農業とか窯業、観光サービス業など、有機的な結合をもたらすなど多大なものがあったと思っております。さらに、道の駅の機能は単に一般の人たち、もちろん今後増加傾向にある女性や高齢者のドライバーのための休憩の施設として、ますます充実が望まれるようになってくると思います。

特に、黒髪の里の特産品販売施設としては、安心・安全・安価が来場者の評価を受け、順調に購買実績を伸ばしてきております。また、平成17年度からは田舎レストラン、先ほど市長がおっしゃいましたように、なな菜を併設したことで食の体験観光スポットとしてにぎわいを増しています。今、本当に行列のできる店として、九州全域と言ってもいいくらいにお客さんが来ていただいております。大体1時間待ちぐらいになっているようです。

また、道の駅設置以前の平成9年における山内地区内の観光客は9万7,000人ほどであったものが、道の駅設置の平成10年には19万1,000人と一気に約2倍近くに伸び、平成16年には39万2,000人を超え、この伸び率は県内でもトップでありました。やはり近時の予測では50万人を超えているとも言われております。同時に、道の駅黒髪の里の売り上げも18年度が2億4,000万円ほどでありましたが、現在では3億円に迫るという勢いで伸長を続けていると言っても過言ではないと思います。

また現在、道の駅はいろんなイベントをして、2月はぜんざい会とか、4月には「春ほのぼのまつり」、8月には「夏！ふれあいまつり」など、四季を通じたイベントを開催しています。このイベントのときに、やはり土日、祝祭日ですね、駐車場が本当に満車状態であるということですね。それが一番協議会とか、市民の方々がもっといい有効利用、活用というか、生かせるんじゃないかという形で東側の土地の利用計画という要望を出していただいていると思いますが、そういう点を考えて、やはりこれを新武雄市長としても山内町の観光アピールとか、そういうのをあわせてみると、この土地の利用計画が必要であるんじゃないかと思われませんが、黒髪の里とか、なな菜もいろいろな問題を抱えていて改善しなければいけないものも多々ありますが、市長はこの用地の必要性に対してどのように思っておりますでしょうか。見解をお聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

おはようございます。お尋ねの場所でございますが、私もたまに道の駅、なな菜に行きますが、土曜、日曜、祝日等についてはかなりのお客さんで、駐車場の不足については理解をするわけですが、この場所について、年間を通じて必要性、あるいは購入するとなれば相当の金額になると思いますので、その財源をどうするか。そこら辺の問題がございますので、もう少し検討をする必要があると考えております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御指名でございますので、お答えしたいというふうに思っております。

基本的に私もなな菜、あるいは黒髪の里によく行くほうなんですけど、やっぱり入っているときと入っていないときというふうにあると。

それともう1つが、果たして本当にこれは市が購入していいのだろうかというのがあります。というのは、武雄温泉物産館も同じ機能を果たしているわけですね。これは市が例えばそこだけ買うといったときに、恐らく納税者の理解が本当に得られるんだろうかということと、もう1つが、これが本当の公共の駐車場になるといった場合には、さまざまな用途で使うという説明が対議会、対市民に対して要ります。そういった説明をきちんとできるかどうかということについて、今先ほど部長からあったように、今、検討をしているところであります。

私としては、基本的にこれは運営協議会でもう一回ちょっとしっかり考えていただいて、その上でやっぱりきちんと協議をするべき話なのかなというふうに認識をしております。

ただ、駐車場が必要であるという認識には変わりはありませんので、もう少しちょっと時間をいただければありがたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

はい、ありがとうございます。

駐車場、今からお話したいと思いますが、駐車場だけでなく、もちろん駐車場でさえ、なな菜と黒髪の里合わせて駐車場が55台とバスが8台、障がい者用が3台という形であって、なな菜も平均して1日120人から190人のお客さんがっております。多い土日、祭日は250人から300人のお客さんです。黒髪の里であれば1日が875名、それくらいのお客さんに来ていただいているということで、やはり当然駐車場は足りない状態であるということですね。あと訪れた人が申しわけなかったけど、隣のスーパーにという形が最近よく出てきているということも聞いております。

これの活用として、私たちの市民グループが2月28日から3月3日を通して「弥生・

窯酔いまつり」というのを行いました。そのイベントをするときは3分の1ぐらいがその会場、駐車場になるので、もちろんまた足りなかったわけですが、こういうイベントの使い方というか、このお祭りは行政とか商工会に頼らず、やはり自分たちで元気なまちをおこしていこうかという仲間だったんですが、大変高い評価をいただきました。そして、そのイベントの内容も中学生の発表の場にしたり、高校生の太鼓の発表があったり、高齢者の方たちの太鼓や踊りの披露をそこでしたりと、本当に地域住民の方の活用として、市民の人が元気になる場として、ここは本当にいい場所ですねということを、訪れた方も、関係者の方とか、そういう方々から意見をいただきました。まず、こういう活用の仕方があるんじゃないかなという形で、1つがこれですね。市長もおっしゃるように、本当に自分たちでまちをおこしていく、もう自主的にまちおこしをしていくというのが本当の形ではないだろうかというふうに思われます。

それと、この場所が、今、楼門の前で朝市とかあっていますが、特徴をねらって、山内なんか60近くの窯元さんがあります。これを朝市的ではないですが、窯元市みたいなのを定期的にしたりとかいう使い方もありますし、あとはなな菜に訪れる方とか、黒髪の里に訪れる方は、何か田舎料理とか、スローフード的なことに本当に興味を持たれていらっしゃるわけですね。そこに常設の箱物は必要ないですが、ちょっとそういう施設的な小さいものであれば、そこで何かスローフード的なお漬物とか、お年寄りの人が教えていただけるような教室みたいなのを開催したりすることもできるんじゃないかなというふうにも思われます。もちろん先ほど言いました窯元市ですね。あと農業者とか、やっぱり農業の後継者が元気になるような農業市ですね、そういう収穫市とか、そういう形でも一緒にコラボレーションすることができるんじゃないかなというふうに思います。

あと、もう既に行われている山内をめぐって体験する「やまうちまるごと体験ツアー」みたいな形ですね。そこを中心として、こういうツアーをすることができるんじゃないか。これも既に開催していて、福岡のほうとか長崎のほうから、この山内を訪れることをすごく楽しみにしている方がふえておられます。

また、ここの発信として、今は黒髪の里は情報発信としてドライバーの方とか休憩所になっておりますが、やはりここに住みたいという方たちが情報を取り入れられるような空き家の情報とか、農地とか山林、そういうことにかかわりたいという人たちの情報もそういうところで発信ができるんじゃないかというふうにも思われます。あと古民家とか、それを古民家のギャラリー風にしてそこに併設すると、そういう発信もできるんじゃないかなというふうに思っております。

また、今度の予算でも上がっていましたように、イノシシの肉の加工という形が上がっておりますが、そういうイノシシの料理とかもこのなな菜とかでブランド化して出すこともできていくんじゃないかなというふうに思われます。

あと、またもう1つ最近出てきているのは、神六山環境保全林を活用し、林業試験場などの栽培技術でムキタケというのを開発されました。キノコですけど、これが黒髪の里の方たちに、これを栽培してみようとは思われませんかという公募がっております。これもまたイノシシと同じく、なな菜のブランドというか、そういうキノコのブランド化ができていくのではないかという形で、駐車場だけでなく、ここの山内の特徴をとらえた情報発信ができるんじゃないかと思われませんが、こういうところを含めて、人の集客、また経済面とも考えて、活用の仕方があるんじゃないかと思われませんが、そのことに対して御見解をお聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

先ほど山口議員がおっしゃっていることは、なるほどなと思って聞いておりました。やっぱりそれは観光、環境、食を結びつけて、そのときに、これが駐車場と、あるいはイベントのスペースと市のかかわり方ということは、ちょっとまた別途議論することとして、1つ私が提案したいのは、楼門朝市をひもとくと、最初は楼門の真ん前でしよったわけですね。そしたら、あの周辺ではちょっと場所がないといったことで、今度、今あの温泉通りになって、これも今もう実はちょっと厳しいというお話で、調整がうまくいけば、今度は高架下に持っていこうというふうに思っております。これは効果的かなということも思っておりますが、すなわちどういうことかということ、その場所ということにかんがみて言うと、これは市が全然お金を出しているわけじゃないんですね。警察との協議がありますけれども、そうするとするならば、1つ提案したいのは、今の山内の庁舎、あの部分であります。これは三間坂駅からも近いということと、黒髪の窯元に行くときに非常に近いといったことからすると、私の基本的な考え方とすれば、今あるところをまず生かしてみようということが大事なんではないかなというふうに思っております。もとより私は黒髪の里、あるいはなな菜に行かれていた方がそこを副次的に使うということを否定はしません。しかし、今の山内のブランド力の高さからすると、多少場所が離れても駐車場がきちんとあると、あるいはアクセスがしやすいということになると、むしろそちらのほうも集客としてはできるんじゃないかなというふうに思っておりますので、こういったことも含めて、市と運営協議会で協議をさせていただければありがたいというふうに思っておりますし、山内にも窯元の皆さんであるとか、いろんな方々がいらっしゃいますので、一回そういった話し合いをする場も必要なのかなというふうに思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

3 番山口裕子議員

○ 3 番（山口裕子君）〔登壇〕

はい、ありがとうございます。

これはいろいろなまちおこしとか、今まで山内町にかかわってきた人たちが意見をまとめて、これが一番有効的な活用の仕方ではないだろうかとか、ぜひ望むところだという形で、今回、私が質問させていただいております。前回、私も庁舎の活用とか、三間坂駅の周辺の整備とかもお願いしておりましたが、もちろんそういうことも検討して、さらに山内町が元気になるというか、武雄市のアピールのポイントになるような形になっていけばなというふうに思っております。

何でここがというのに、今ちょっと市長がおっしゃいましたが、飛龍窯とか訪れたいという人も、なかなかストレートに飛龍窯に行くということが難しいですね。なかなか知られていませんし、道もわかりにくいんですね。はっきり言って、山内町も三間坂駅とか、山内町役場はどこでしょうかというのは、本当に住んでいて、私も全然知らない県から来る方に教えるのが難しいんです。だけど、道の駅黒髪の里という、もうストレートでここに来てくださるというか、そういう面で一番アピールのポイントというか、行きやすいところというか、情報発信しやすいところというか、そういうところを大きく見て、私は武雄市がアピールするというか、それと経済的な効果もここは大じゃないかなと。協議会とか、いろんなまちおこしグループの方たちと、市長とか、まちづくり課の皆さんとか、いろんな部長さんたちがここを練り合わせて、どういうふうに持っていったらもっと活性化というか、いい形になるだろうかというのは本当に必要だと思っております。それは黒髪の里にしても、なな菜にしても、何か限度を超えているというか、これ以上はもうお客さんも来れない状態というか、もうもったいない状態ですね。そういう形がお客さんとか、いろんな生産者、消費者の方から声が寄せられております。だから、整理する意味でも、ぜひそういう話し合いを早く持っていただけて、いい形になっていくことを願っておりますが、そういう点に対してはどうお考えでしょうか。

○ 議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○ 樋渡市長〔登壇〕

私が申し上げたいのは、やっぱり短期的な話と中期的な話というのを 2 つ複眼的に考えなければいけないというふうに思うわけです。

1 つは、短期的にいった場合に、今、例えば土地の問題があって、これはやっぱり一朝一夕で、我々ももし購入するとなると、いろんなところに説明をせんばいけません。そうなってくると、じゃ、その前に何もできないのかと言う前に、1 つ私が申し上げたのは、短期的に、あいているところがあるわけですね。例えば、庁舎、あるいは三間坂駅周辺という、そんなに僕は知名度は劣るとは思いません。そこでまずやってみましょうと。その間にこっ

ちの交渉をやりますよで私はいいと思うんです。

その上で私は、これはちょっと言い過ぎだと言われるかもしれませんが、基本的に駐車場を、例えば、お祭りであるとか、あるいはなな菜、あるいは黒髪の里でするといったときには、それは当該当事者がそれでリスクを背負って購入すべきというふうなのが、これは基本的には市民の見解だと思うわけですね。これを例えば公共のために使うといったことであれば、それは公共である我々が購入すべきだという論は成り立ちますけれども、あくまでも駐車場が足りないと。何のために足りないのかといったときに、黒髪の里であるとか、なな菜であるといったときには、それは基本的には売り上げもあるわけだし、そういったところでまず購入をして、ただ、それは全く公共ではないとは言いません。そこに市の応援とかがあってしかるべきではないかなというふうには思っておりますので、いずれにしても、これは先ほど営業部長も私も申し上げておりますけれども、ここはもう少し検討させていただいて、今できることが、やれることはすぐやったほうがいいのかなというふうにも私は思っております。

いずれにしても、これは駐車場が不必要だとは申し上げません。必要だという認識はそれは議員と同じですので、もう少し時間をいただければありがたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3 番山口裕子議員

○3 番（山口裕子君）〔登壇〕

はい、よくわかりました。

私もこの質問をするに当たって、最初は黒髪の里の協議会とかも町のほうの管理のもとだったんですが、やはり指定管理者になってからのことですので、市長がおっしゃることもよくわかります。だから、話し合いを進めて、これが本当に武雄市にとってもすごくメリットのある場所でもありますし、経済効果を生むところでもありますので、いい形で、あと景観とかも考えて、土地が売りに出されていますので、そういう形を考えて、早く対策をとったほうがいいんじゃないかなという思いでこの質問をさせていただきました。いい形になっていくことを、やはり話し合いの上、進んでいくことを願っております。

次の問題に入らせていただきます。

次は環境問題です。

1 番目に、地球温暖化防止についてということですけど、大変深刻な問題に今なっております。ことしは環境元年、京都議定書の約束期間の開始年であります。やっとなし、世界で二酸化炭素削減が始まります。また、先進国首脳会議が日本で開催され、日本政府は議長国として温暖化防止を推進しなければなりません。そういう背景にありまして、やはり地球温暖化というのがますます厳しい状態になってきているんですが、では、私たち市民は

何をすればいいかというところで、前回もいろいろ環境問題を上げさせていただきましたが、やはり私としてはごみ削減の努力というところで、とても気になるところがあります。前回の答弁でも、庁舎内の消灯とか、いろんな形の節約というのを本当に努力されておりますが、そういう一人一人とか、会社経営、企業とかが努力しているところはもちろんですが、何かイベントとか、いろんなお祭りとかを見ているときに思うのですが、エコバッグも武雄市としてはつくり上げました。もうその以前から山内町でもエコバッグをつくってありました。でも、その活用とか、その推進とか、そういう実際に人がそれを持って動くという形になかなかりません。

ぜひ私はお願いしたいのは、朝市のときとか、いろいろなお祭りとかイベントに、やはり経済効果を生むことばかりではなく、このエコライフというか、エコの大切さというか、そういうのを同時に打ち出していだきたいなというのが私としてのお願いですが、有効活用としては、朝市でもエコバッグを持っていらっしゃる方には何かポイントを上げるとか、あとはレモンガラスのティーバッグを1つプレゼントとか、何かそういう形で喜んでというか、楽しんでエコが推進できるようなのを同時に私はやっていだきたいなというふうに思っております。

先ほども言いました「弥生・窯酔いまつり」でも、はしは竹ばしでつくるところで、食堂関係のはしを竹ばしにしてみたりとか、あと毎回毎回豚汁とか、そういうのをプラスチックのおわんとか紙のおわんではなく、使い捨てではなく、ちょうどよく窯元さんがいらっしやいましたので、窯元さんの焼き物でそれを洗いながら使うとか、そういういい打ち出しができていくもんだと思っておりますので、朝市なんか何杯無料ですとか、そういうのは毎回のイベントとして器を用意することができないかなというふうに思います。とても気になります。一回食べては捨てていくというですね。レモンガラスの試飲とかも、せっかくこの焼き物がありますので、その試飲グラスというか、その焼き物を決めていて、そういう形で、物を使い捨てないという習慣をこういうところでしっかり打ち出していだきたいなというふうに思っておりますが、市長のお考えをもちろんですが、環境課の部長とかにもお聞きしたいと思います。お願いします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

おはようございます。議員御指摘の使い捨て、確かにもったいないと思っております。ただ、そこにそれだけの使い捨てせんでもいいような、例えば、今言われた朝市のときの容器の使い捨てですけど、あれを議員言われたとおりの陶器で何回でも使う。確かにリユースという形で洗って使えるということは一番いいんですけど、その場所にそれだけの設備があるのかと。ですから、市民一人一人の自覚といいますか、そこら辺の啓蒙をもっとやっていかんや

いかんと思います。何しろ、けちにならにゃいかん。節約、環境課としてはその精神を進めていくと。そのくらいで、ちょっときょうのところは。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、エコバッグを持っている人にレモンガラスのティーバッグ1つをプレゼントすると、これは始めようと思っていますね。確かにそれを楽しみながらエコをやるということは非常に同感ですので、どれだけそれで広まるかはちょっとよくわかりませんが、ポイントにするなり、あるいはエコバッグを持っている人たちというところは、それは考えたいというふうに思っております。早ければ4月の終わりから始めようというふうに思っております。

それともう1点の器、これは非常に頭の痛い問題です。それで、これを一気に陶器に変えるというのは、なかなかこれはちょっと大変ですので、まず私たちを含め、朝市の常連さんは器を持っていこうと思います。自分のマイ器をですね。それをするによって、まず自分のものは自分でといったことで、それが広がるきっかけになればいいなというふうに思っておりますので、これが総量としては使い捨ての器を減らすということにもなりますので、まず隗より始めよ、まず自分たちからそういうふうにやっていこうかなというふうに思っておりますので、このケーブルワンをごらんになっている多くの方々もいらっしゃいますので、ぜひ器を持ってきたら、具をいっぱい入れようかなというふうに思っておりますので、ぜひ御協力をお願いしたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

ありがとうございます。

この後にマイカップとか、マイはしとか、マイ器じゃないけど、そういう提案をしていきたいなと思っていたんですが、こういうイベントで地球温暖化が大変だとか言いながら、そういうことに気づけないとか、なかなか行動できないというのが一番の問題ではないかなというふうに思っているんです。できることからといっても、できるところのやり方次第だと思うので、やはりもっと今の深刻さを考えれば、できることからという形でおちおちゆっくりしているときではないと思うんですね。

あともう1つ、なかなか答弁がはっきりしなかったまちづくり部長。だって、私はちょっと不安に思いました。何でかという、方法はたくさんあると思うんですよ。100杯も200杯もサービスする必要は私はないと思うんですね。市長が先ほどマイ器とかの場合だったら、それでいいと思います。100杯も200杯も用意できるんだったら、日曜日の朝市のときにサービスするのもいいでしょうけど、もっとスロー的な感覚で、きょうは50杯とかやったら、50

個の器を用意すればいいわけで、1つの例は、山内町でいいますと、年末にライトアップのイベントがあります。そのときは必ず200個ぐらいの器が用意されていて、必ずそれを毎年毎年使ってあって、ほかの要望があれば、その器を貸し出したりとか、そういう形で使い捨てというのをやっぱりやっておりません。だから、この間の「弥生・窯酔いまつり」とかに行ってもごみがやっぱり出ないですね。そういうことをすると、ごみがまず出ません。やっぱりそういう成果を一つ一つ積み重ねていくというのが、行政が見せる姿じゃないかなというふうに思います。みんな個人で市民の方も頑張っておられると思うんですが、そういうイベントのときに皆さんおっしゃるのが、あれはどうかなんのかねとかいう声がよく聞かれますので、私はマイ器とかマイカップ、そういうのは大事だと思います。自分で自分のことを責任持つという形で。

それと、環境のことは、楽しんでとか、そういうことはなかなか言いづらいのですが、やはり皆さんがわくわくするような形で提案しなければ、これはいい形になっていかないのかなというふうにも思っております。4月からとおっしゃいましたので、よかったなというふうに思っております。

あともう1つ、地球温暖化というところで森林破壊の問題があります。緑被率というのがありますが、日本は66%で世界2位です。でも、日本が世界最大の木材の輸入国であります。60年代にはフィリピンを開伐して、70年代はインドネシアの熱帯雨林を開伐して、現在はシベリア、カナダ、アメリカ、中国、マレーシアなどからの大量輸入をされています。やはり1年間の消費を木造住宅に換算すると、割りばしは2万軒です。年間200億ぜんを使い捨てております。牛乳パックでならば住宅3万軒分です。1日2,000パックです。ティッシュペーパーは7万軒分です。50万トンです。トイレtpペーパーなんかは14万軒分で95万トンです。雑誌、書籍、新聞など70万軒分で500万トンです。

私が言いたいのは、マイはしとか、マイカップとかを環境グループの人たちが進めていますが、やはり一人一人が気づいてこういう動きをすれば全くこれを必要としないわけですね。使い捨てなくていい形が出てきますので。もともと割りばしは国産の木材の端材を利用していました。消費量が急増するに従って、原料に海外産の木材を使うようになりました。割りばしの自給率は1989年には32%にまで減少、その後も自給率は減少し続け、2005年の自給率は2%にまで落ち込みました。ということで、現在、割りばしなどは輸入材は99.6%が中国の木材を使用し、この木材輸入のために大量のエネルギーが消費されています。やはり中国では、割りばしなど日本の木材消費の増加が原因で山から森林が消え、洪水や河川の断水なども起きています。最近、自分たちが身にしみてわかるのは、やはり中国の砂漠化ということで、お祭りの最終日だったと思います。3月3日ですね。白い粉が降るぐらいに黄砂の影響が出てきております。やはり自分たちのやっていることに気づくことで、少しでも防げていくことは行動を起こしていくべきだなというふうに思っておりますので、私はマイはし

を持つということなども含めて、市長に推進していただきたいなと思っておりますが、どうお考えでしょうか。お聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっと気になることがあるんですね。例えば、環境をすごい大事だと思っている方々と話すときに、全員が全員とは言いませんけれども、例えば、さっきの器の話でもそうです。やってくださいと。でも、それは先ほど私が言ったとおり、やっぱりそれは現実的なところから始めないと私だめだと思いますよね。だから、今まで進めなかったと思うんですよ。だから、対立項じゃなくて、まず自分からやると。私の基本的な姿勢はそうです。人にやらせるというよりは、自分が思ったのはまず自分からやると。それで、格好いい言い方をすると、私の背中を見てくれた人が、同感する人が全員とは言いません。反感も食らいます。だけど、これでやってみようという人たちをふやしていくことが、結果的にそれが広がりを持つものだというふうに思うわけですね。とするならば、私としては、私は推進するという立場は、市長ですので、それは当然ですけれども、まずその輪を広げていきたいと思いますということが大事なんじゃないかなというふうに思っております。それがないと、私だけが、いや、マイはしだとか、マイバッグだとか言っても、ああ、また市長はとんこづいとんさあというふうになりますので、まず自分の身の回りからね、山口議員はやっておられますけれども、さらに輪を広げていくようにして、そこに我々もまた乗っていくという形のほうが、今の環境を進める上で広がっていくのかなというふうに思っています。

それともう1つは、私がはっと思ったのは、バンクバンドというバンドがあります。これはだれかということ、Mr. Childrenの桜井さんが組んで、その収益をまた環境に回していくということ。それと、アルバム自体ももう再生紙みたいなのでできているわけですよ。だから、有名人がやってくださいじゃなくて、きちんと目に触れるところから、しかも、それを自動的に買うことによって環境保護を自分たちがやっていくんだという、さっきおっしゃったような楽しみというのがないと、今の日本ではなかなかまだ広がりがつかないのかなと思っておりますので、そういう意味で、私は朝市がエコの一つのシンボルキーワードになればいいなというふうにも思っています。

それともう1つ、ちょっとお願いがあるのが、朝市で今、結構農産品がやっぱり多いんですね。私が前々からちょっと申し上げたかったのは、家庭で不要になるもの、だから、服でもいいと思うんですね。だから、そういったものを家庭から自発的に出してほしいということがあります。それをすることによって、あそこの朝市に行けば、知らず知らずのうちに買っていくことによって、自分たちは環境にも配慮しているんだと、結果的に配慮しているんだというふうになればいいなというふうに思っておりますので、朝市の場所も含めて、1

年たちますので、その位置づけをもう一回考えるときが来たのかなというふうに思っておりますので、またぜひお知恵をお聞かせ願えればありがたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

本当に市長のおっしゃることはそのとおりで、私は環境のことを人に押しつけたりとか、対立することではないと思うんです。そういう意味で、私たちのグループとかもたくさん、マイはしというのは本当に若者たちにも今どんどん広がっています。おしゃれに自分のはしを持ってレストランとかいろんな飲食街に行くと、お店の方も、ああ、マイはしですねと気持ちよく、うわ、すごいですねとか、そういう形が出てきております。

それともう1つの原因は、割りばしには防腐剤とか防カビ剤がかなりしみ込んでいるわけですね。しみ込ませないと日本のほうに持ってこれないわけですね。だから、そういう面もして、このマイはしブームというか、自分のことは自分で、自分の環境のことは自分からという形、市長がおっしゃるように、自分の姿をまた次の世代が追っていくとか、気づいていくという形が本当に私は必要だと思います。だから、これは押しつけることではないんですけど、なぜそういう背景があるかということですね。何でたったマイはし一つ、自分一つのことがそんなふうにつながっているのかということをもみんなが意識しないと始められないと私は思ったんですね。これ一つ持つのにちょっと勇氣は要るかもかもしれないんですが、これをみんなが始めれば、1年間に250億ゼンの使い捨てというのがやっぱり一瞬にしてなくなると私は思うんです。環境ってそういうことだと思います。みんなが意識して、みんなが気づけば、一遍にしてこの環境問題は簡単に片づくんじゃないかと、言い過ぎかもしれませんが、私はそういうふう思います。

ごみ処理代だって年間3億円税金から投資しているんだったら、これを減らすことによってかなり節減ができるんじゃないかというふうに思います。市長が元気なまちのアピールをしてくれたり、いい形をしてくれるので、ああ、市長が一つそういう動きをしてくれたら、エコ的な動きをしてくれたら、すごく武雄市、またさらに、ああ、いい発信だねというふうに、環境のことにおいては特にどこも注目をしておりますので、また一ついいきっかけになるんじゃないかなというふうに私は思っております。本当に環境のことは対立ではありません。押しつけることではないと私は思っております。だけど、だれか気づいた人ができるところからと言っているときでもないように、異常気象を感じたり、黄砂のときもこんなふうな状態が来るとは私は思っておりませんでした。やはり子供たちが自転車通学するときに白い粉を制服にかぶったような形と、のどや目が痛いとかいう状況は、何かやはり大人がもう少し真剣にならないといけないかなという思いで今回質問をさせていただきました。

それと、もう一つちょっと気になることと、市民の皆さんからの声をいただいているもの

があります。地球温暖化という観点からですね。

山内町は年に1回、夫婦岩のライトアップということのお祭りというか、そういうことをやっておりますが、武雄温泉で桜山のライトアップという形で、これは観光面のアピールが何かよくわかりませんが、ライトアップが行われています。旧市のときからやってあると思うんですが、毎日ライトを当てるということですね。どうしてあんなふうにされているのか、地球温暖化のことを考えたり、植物の生態系のことを考えたときに、毎晩あそこを照らすよりは、山内町みたいにイベントというか、ライトアップという日を決めてやれないもんかねということのお尋ねがありますが、そのことに関してお聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

桜山のライトアップについてはずっと前からで、恐らく市のほうからは金が出ていないと思います。温泉のほうですかね……（発言する者あり）県ですか。そこらについて、ちょっと私も詳しいことはわかりませんが、そのいきさつ等も調べてみたいと思いますが、あそこについては、確かに夜明るいわけですが、例えば、温泉の鷺の湯の露天からとか、旅館、ホテルからの眺めといいますか、そこら辺であそこが毎日ライトアップをされているという状況で、観光客のためということで理解をしております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私はあのライトアップというのは必要だというふうに思っています。というのは、いいでしょう。所感を言っていますので。

なぜならば、楼門であったり、蓬莱山ですかね、当てることそのものというのは、私は基本的にライトアップがあって、あそこが一つは夜のシンボルになり得るというふうに思っています。何もネオンをきらきらではなくて、要するに自然のものに光を当てているわけですね。それは楼門も一緒です。辰野金吾博士がつくった楼門に光を当てているということ。だから、私は総体として考えなければいけないのは、それを環境のシンボルにするのか、観光のシンボルにするのかということになると対立軸を生んでしまうことになりますので、例えばです。これは私の私見ですけども、いつも温泉通りに、冬になると青々しいネオンというか、光がだあっと下から上のほうまでなりますですね。あれはどうなのかなというふうに思うわけですね。むしろ、それはめり張りをきちんとつけると。

だから、総体としての電気力、CO₂削減の抑制につながれば私はいいと思っておりますので、何もかもではなくて、やっぱり観光都市という側面もありますし、これは我々の行政的に何か指導できる立場でもありませんので、法律にのっとってできる立場じゃありません

ので、そういった我々からすると所感を申し述べるにすぎないんですけれども、そういうめり張りのあることは必要なのではないかなというふうに思っておりますので、もっと例えば家庭であるとか、だから、山口議員が先頭に立っておられるキャンドルナイトとか、そういった形で年に何回かはそれは消しましょうと。だから、東京タワーも同じですよ。東京タワーも、じゃ、あれをなくすことが本当にそれは東京のためにとっていいのかと、あるいは日本にとっていいのかということにもなりかねませんので、そこはいろんな声を聞く必要があるのではないかなというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

環境のほうから見たら、あれを毎日照らす必要はないんじゃないかとか、やはり植物にとても毎日照らしていく必要はないんじゃないかということをおもわれます。言っておられる方は、この背景が私は、この質問に当たって調べてあったのかどうか分かりませんが、こういう観光のアピールとして始まったのか、どういう期間かも今ちょっとわかっておりませんが、私はこういう山内町のようなライトアップ的な、そういうやり方はできないのかという提案ですね。一番皆さん地球温暖化とか、いろんなことをどうしたらいいんだろうというときに、毎日あそこを照らす必要はないんじゃないか。あとネオン街がよくなくて、毎晩お酒を飲んだり、そういうかわいとか、そういう形を好まれる方はネオンは必要だと思って……

〔市長「違う違う、ネオンじゃなくて、その明かり、点灯する明かり」〕

そうですか。というふうに、やっぱり人それぞれの価値観と思うんですね。だから、私は今このような地球環境が本当にどうしたらいいだろうかという状況になっているときに、やっぱり目立ったところで皆さんが関心を持たれているところだと思います。それもまた本当に観光のアピールとしてこれが必要だというならば、またこのことはそれでいいと思いますが、やはり一つ一つこれはどうだろうか、これは随分解決のもとになるんじゃないだろうかとか、そういう形を私は必要だと思っております。やはり今、できることからとか、そうですねとか言っているときじゃなくって、やっぱり行動をしなければ何も変わっていかないので、一つの提案をさせていただきました。今後、また検討してもらって、ライトアップの日とかを決めたり、いろんなやり方もあるんじゃないかなというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

次に、食育環境について入らせてもらいます。

ここは3項目上げさせていただいております。

まず1項目は、武雄市は食育という形で大きく打ち出させていただいておりますが、今は時代背景を見ましても、今、学校給食が週に5日間ありますが、米飯にしたかどうかという提

案を私はさせていただきます。

米産地である白石町なども通して米飯給食がされておりますし、食育の勉強会とか、いろいろな形がある中、やはり米を中心とした食事が一番バランスがとれるということで推進されております。やはり日本人として日本食をこの給食で提供するというか、進めていくという上で、農業の推進とか、命のはぐくみとか、稲の体験とかを保育園生とか幼稚園生からやっておりますので、そういうことも含めて私は学校給食を、米余りとか、そういうことも言われておりますが、やっぱり子供たちに給食から御飯になじませるというか、そういう意味で、5日間通しの米飯給食はいかがだろうかと思っておりますが、市長のお考えをお聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は基本的には米飯がいいと思いますね。

それともう1つが、ちょっと話が迂遠になりますけれども、私は給食で御飯が出るのも牛乳も嫌いでした。それはなぜかとずっと考えよったときに、腑に落ちたことがあって、御飯と牛乳と一緒に食べると、それはおいしゅうなかと。なるほど。私は両方とも嫌いになった理由が、この年になってやっとわかりました。もし御飯を進めるとするならば、副食もそうですね、お茶をちゃんとね、御飯に一番合うのは武雄産の嬉野茶だと思います。そういうことで、私はそれが地産地消にもつながると思いますし、単に米飯拡大といっても、なかなかそれは子供の気持ちは、ハートはつかみ切らんというふうに思っておりますので、そういった総合的に検討する必要があるというふうに思っております。

それともう1つ、単価的な問題です。これは教育委員会からしっかり教えてもらっていますけれども、パンは1食につき43円なんですね。それと御飯は1食につき58円で、ここで15円の開きがあります。今の給食関係の法律からいうと、それは保護者の皆さんたちが負担をしなければいけないといったことからすると、給食費の値上げの問題に直結するわけですね。これが果たして保護者の皆さん、あるいはPTAの皆さんのハートをつかむことができるかどうか、これもひとつ考えなければいけないということと、もう1つは、食材費の高騰の問題があります。これは小麦のみならず、全体が上がっていますので、今これを検討をきちんとしてすべきかどうかというのは非常に悩ましい。それは経済的問題から含めると悩ましい問題がありますけれども、でも、基本的にさっき白石が1週間通して米飯というのは、僕は初めて知りましたので、そういう意味では、ちょっと白石のことも聞きながらやっていきたいというふうにも思っております。

もう1つが、これをはばんでいるのは文科省です。文部科学省が――いや、私も教育委員会に、御飯が出るときはもう牛乳やめんしゃいと、カルシウムがとれればいいんでしょうと

いうふうに申し上げたところ、教育長が、いや、文科省が補助金の問題でとかと言うけんですね、事ほどさように、文科省さんはもうそういったことは任せてくださいと、そう思いますね。これも必要とあらば、ちょっとまた教育長のお力をかりながら、文科省に言っていくべき話かなというふうに思っております。本当にここまで中央集権が及んでいるということは、給食にまで及んでいるとはちょっと夢にも思いませんでしたので、そういった制度的改正も含めてきちんとやっぱり言う必要があるのかなというふうにも思っております。

いずれにしても、基本的には米飯はやっぱり拡大はしていきたいというふうにも思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

やはり私もこの質問をするに当たって、いろいろ調べてみました。最初、日本で学校給食が成立したのが昭和29年ですね。そのときにパンと脱脂粉乳による学校給食がアメリカをスポンサーとして開始されたというふうに一応載っているんですが、やはり1954年、アメリカで余剰穀物を途上国などが低金利、長期返済で購入できる農業貿易促進援助法が成立し、日本は戦後の食料不足から、アメリカから4億ドルの食料援助を受けた。そういうところから給食が始まっているわけですね。だから、戦後、そういう状況にあったときから給食が続いていて、だから、私はこれを米飯にと言ったとき、いや、もともと給食はパンだったんですよと言われて、ああ、何でパンだったんだろうかという思いに至ったわけですね。やはり子供たちがパン食になじむことで、日本は小麦の輸入国、アメリカですね、最大の買い手であります。もうこのとき1961年から1970年、いろんな農業基本法制定とか、食糧管理法とか改正され、減反政策が始まったり、1970年には改正農地法などが策定され、農地が工業団地へ変わったりと。この間、1961年から1970年で穀物の自給率が83%あったものが、やはりここで48%減ったわけですね。10年間で半減しているわけですが、だから、今、これだけ地産地消とか、農業支援とか、減反政策の中、どうしたら米が皆さんに愛されるというか、食べていただけるのかとか、いろんな問題を抱えているとき、市長が何で牛乳を飲まんといかんのだろうかという問題があるように、やはり今、子供たちが置かれている食の環境とかを考えて、変えていかなければいけないというか、変えたほうがいいものは変えていっていただきたいなというのが私の一つの思いです。

それと、もう家庭で日本食とか、なかなかそういうのがわからない状態というか、朝も御飯を食べてこないとか、朝、ケーキが1つだったとか、いろんな調査をされますが、申しわけないけど、給食で基本的な日本の食事を与えるというか、そういう時代になったのかなというふうに思います。そこで、学校給食をいただいて日本食のよさとか、本当に地産地消を

高めることとか、そういうことがまた再度力になっていくんではないかと私は思います。そういう意味でも、いろいろなハードルはあるでしょうが、こういう米の大切さというか、日本食というところをこの給食から進めていってもらいたいなというふうに思っております。

そしたら、次の問題に行きたいと思います。

まず、2番目の食環境というところで、私は食べ物をやはり捨てない。本当に今、日本では廃棄食料が26%と言われていています。ある調べでは30%とか、もう40%という数字も出てきておりますが、3,300万人もの食料が廃棄されております。毎日のことです。これを1年間に計算すると、2兆円以上のものがやはり捨てられている形になります。

では、自分たちの周りからこれはどうしていったらいいかなということになりますが、私はやはり学校給食の残滓とかはどんな形なのかということもひとつお聞きしたいと思います。もしこの残滓が多ければ、その子供たちの食というか、カロリーとか、いろんなものを考えてあるならば、残滓が多ければ見直していかないといけないでしょうし、やはり捨てないというところを考える必要があるんじゃないかと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾こども部長

○松尾こども部長〔登壇〕

お答えいたします。

現在、武雄市では食育推進計画というのが最終的な段階になっておりますけれども、策定中でございます。その中で、子供たちが身につけたい力ということを掲げておりまして、命に感謝する、食べ物の育ちを感じる、こういうのを掲げております。具体的に食育推進のための施策の展開という中で、食から学ぶもったいないキャンプということで、食をする中で、いろんな食べ物を食べるとか、無駄にしない、それから食べ物に感謝をすると、そういうのを今後、この食育推進計画の中でいろんな講座とか活動の中で普及をさせていきたいというふうに考えているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

この質問に当たって、残滓はどうですかというふうに聞いてはいたんですけど、一応米飯のときが、学校を休む子とか、そういうときにパンだったらいいんですが、お米の場合が、休んだ人の分まで振り分けたりと、そういうときに残滓が多くなったりしますとか、そういう状況が出ておりましたので、そういうことをちょっと質問させていただいておりました。やはり適正なカロリー数とか、子供たちに無理のない食べさせ方だと思いますが、残滓とかが多ければ量的なことも考えていく必要がある問題かなというふうにも思っております。

あと、やはり今言っていた日本の廃棄食料が26%で2兆円にも及んでいるということと、

あとコンビニとか、そういう食料の中で廃棄物が年間2,150億円というふうにも言われておりますので、やはりどこかできるところからといいますと、私は1つ気になるのが、やはり行政とか、いろんな形での懇親会とか、祝賀会とか、そういう形がありますが、そのときにやはり出る残滓というか、捨てられる食べ物がとても気になるので、やはりこういう会を持たれるときに、50人とか100人の会であれば、50人であれば40人分を注文するとか、そういう努力がなされて、残滓というか、食べ物を捨てなくていい形が出てくるんじゃないかと思いますが、そういうところの見解を市長お聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

先ほどちょっと学校の残滓の処理の話で、私が知っていることだけ申し上げますと、武雄小学校が給食の残滓をうまく加工して、それを専用の畑に入れて野菜をつくっておられます。武雄小学校の5年生の組だったと思いますけれども、それをまた楼門朝市に出していただいたりしていましたので、そういう個々の学校によって活用はあろうかというふうに思っております。

先ほどの質問、割と少な目ということとは、それはそうだなというふうに思っておりますので、これはちょっと我々だけでなく、婦人会であるとか、いろんな会を持たれる、これからかなりやっぱりふえてきますので、そういったことは念頭に置いていただければありがたいというふうにも思っておりますし、我々も頭にはしっかり入れていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

やはり「がばいばあちゃん」を口ケ誘致して、観光にもつながっているところですね。やはりもったいない精神というか、がばいばあちゃんが言っている、捨てるものは何もないとか、そういう精神が武雄市のエコにぜひつながってほしいなという思いで質問させていただきました。やはり一人一人が意識するところで大きく変わっていくんではないかなというふうに思っております。

それでは、最後になりました。食育環境についての3番目です。

またちょっと市長にとっては嫌な質問かもしれませんが、自動販売機という形で、予算のかからないまちづくりの一つの例でということで、れんが調の自動販売機が設置されたんですが、これも私としてはとてもすんなり喜べることはありませんでした。何かこう食育の環境とかを言っているときによくおっしゃるのが、ジュースの中に30グラムとか40グラム砂糖が入っていますとか、子供たちによく食育の勉強会であります。あと大人たちもいつもい

つもくせのように飲んでいるコーヒーの中には何グラムが入っていますとか、そういう食育の勉強会でも本当私もそういうことをよく聞いている中、この食育のことと地球温暖化のことを考えたときに、今、新しく自動販売機を市が置く必要はないんじゃないかなというふうには私は思いました。50メートル行けば自動販売機、100メートルもないところに自動販売機もあるし、あと24時間のコンビニもありますので、もう今さら私は、少しの財源を潤すためにだったと思うんですが、さらに公園や駐車場にふやしていきたいみたいな感じだったので、私はこの自動販売機を幾られんが調にしても、余り進めてほしくないなという思いであります、市長のお考えはいかがでしょう。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

非常にやっぱりこれは難しい質問で、なかなかちょっと私の頭脳ではこれをぱっと答えるすべはありません。いや、笑い事じゃなかとですよ。どういうことかということ、これは1つは選食能力という意味では、それを鍛えることによって、いや、これは食べてはいけない、食べるべきだ、飲むべきだ、飲んではいけないという能力からすると、そういったことを加味すると、自動販売機というのはあくまでも、例えば、公共施設内に置いているれんが調の自動販売機というのは収益が観光にまた回るわけですよ。だから、食育の観点と観光振興の観点があるという、ちょっと比べられないような次元のものがありますので、これをちょっと今ここで回答といっても、それはなかなか難しい。しかし、今言ったことと矛盾しますけれども、じゃ、果たして公共施設にあんな砂糖たっぷりのものがあっていいのかということと、もう1つが、いろいろちょっと難しい問題、悩ましい問題もありますので、ちょっと時間をかけてこれはまた考えていきたい。

ただ、基本的には私は自動販売機はあってはいいと思います。あってはいいと思うんですが、ただ、公共施設に置いてあるものの中身ですよ、中身。だから、それはちょっと改善の余地は多々あるのかなというふうには思っております。電気代等については、これは市報でお知らせをしておりますけれども、例えば、電気代というのは夜間あれだけ要るのかと。夜間こうこうと明かりをつける必要があるのかといったことからすると、それは自動販売機自体、業者の皆さんたち、あるいは設置権者の皆さんたちがCO₂削減のためにそういう時間はつけないということもあると思いますので、答弁しているうちにだんだん何言っているかわかんなくなってきましたので、ちょっと検討させていただければありがたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

環境問題は本当に一人一人の意識の違いとか、いろんな問題があると思いますが、やはり今若いお母さんたちですね、もう大人もそうですが、アトピーとか、アレルギーとか、花粉症とか、いろんな形で悩んでいて、子供たちがぜんそくとかアレルギーとか、いろんなのでお母さんたちも苦しんでいるときに、やはりこれがよくなかった、あれがよくなかったとか、いろんなお勉強もされるし、できれば目の前にそういうものがあると、子供に幾ら選択の能力をつける必要があるとかいっても、そういう食環境をつくってあげるのは大人の責任ではないかと私は思うわけですね。だから、これ以上、ジュースが足りないとか、お茶の場所が足りないとか、そういうのであれば私は仕方ないなと思うし、その財源も本当に必要だと思いますが、逆にごみを削減したり、財源のつけ方はまた違う形で環境を保全したりすることによって生み出されるんじゃないかなというふうに私は思っております。

本当に市長は何かよくわからないと言われますが、10時から消すことよりも、つけなかったら、私はそのほうがいいなと思います。これをふやさないほうが私はいいいんじゃないかなというふうに思います。れんが調がすべてに合うこともなく、私はちょっと北方支所の前を通るときに、子育て支援センターから移動されたという話も聞いておりますが、とても浮き上がっていて、余りにも目立っているなというふうに私は思うんです。それは人それぞれの価値観でしょうが、これだったらいいというわけじゃないですけど、あと武雄のT S U T A Y Aさんの隣のしまむらなんかは、真っ白のメーカーも何も入らない、「s h i m a m u r a」って横書きしたアルファベットが入ったような、びっくりするような自動販売機が置いてあるんですが、そんなふうに、景観とか、れんが調とか、いろいろ推進するわけじゃないですが、私としては、この自動販売機はさらにふやす必要はないんじゃないかということをお伝えしまして、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。